

聖書:エペソ人への手紙4章14~16節

説教:かしらであるキリストに向かって

はじめに

先週、ま新しいランドセルを背負った子どもたちが親に連れられて歩いている姿をみかけました。どんな親でも子どもが成長して将来幸せになって欲しいと願います。ですから、成長への一步を踏み出す入学式は家族にとって特別な日となります。ところが、やがて子どもが大人になるとどうなるか。親は、自分たちの期待と違った息子娘になってしまったことに失望し、子どもも、自分が描いていた夢とは異なる厳しい現実を前にして落胆してしまう。ですから、今日のところで二度繰り返されている「成長」ということばを見ても、複雑な思いを持つかもしれません。そこで今日はこの成長ということばに目を留めて、三つのことを考えていきます。一つ目は成長する目標はなにか、二つ目はなぜ成長するのか、三つ目はどのように成長するのか。この三つのことを考えていきます。

1 目標はキリスト

まず一つ目、どこに向かって成長していくのか。目標は何か。たとえば、「子どもの成長」というときは、大人になることが目標と理解します。成長というからには必ず向かうべき目標がきちんとある。聖書における「成長」はどうか。15節後半で明確にしています。「あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。」「かしら」というのは、頭のことです。子どものとき、大人の頭はいつも下から見上げていました。はやく大人になりたくて、ときどき踏み台に乗って大人の真似をしたりしました。それと同じように、私たちはかしらであるキリストを見上げ、大人になってキリストの背丈になることを目標にします。成長の目標はキリストです。

2 成長する理由

1) 教えの風に吹き回されないように

二つ目のことは、なぜ成長するのか、その理由について。子どもから、「どうして勉強しなければならないのか」と質問されて困った方もいるでしょう。同じように、なぜ私たちは成長するのか、きちんと理由を説明してもらわないと納得できません。

成長する理由は二つあります。一つ目。14節前半。「人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出

た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがな(いように。)」今の時代、巧妙に正しいことを装って人ををだまそうとする話しであふれています。羊の皮を被った狼が教会に入り込んでくる話しも一杯あります。狼かそれとも羊か、見分ける目がなければ、足をすくわれて大変なことになる。そうならないために、私たちはいつまでも子どもでいるのではなく、キリストを目指して成長します。これが成長する一つ目の理由です。

2) 愛をもって真理を語る

成長する理由の二つ目。15節。「愛をもって真理を語る。」真理を語るというと何か難しい印象があります。一つだけ例を挙げましょう。皆さんがイエス・キリストを信じたときのことを思い出してください。あるときクリスチャンに出会い、その方を通してキリストを紹介され、そこから信仰へ導かれていったはずですが、つまり真理を語ってもらったことになる。そしてこんどは、救われた皆さんが真理をほかの人に伝えることとなります。別に背伸びする必要はありません。神さまからいただいた恵みと喜びをただ証しすればよい。それがそのまま愛をもって真理を語ることとなります。嘘や偽物でも声高に語れば、いつのまにか真理と思われてしまう時代です。そんなときだからこそ、私たちはキリストが示してくださった真理である救いを語り続けます。

3 どのように成長するのか

1) キリストによって

成長の目標と理由がこれでわかりました。次に三つ目、どのように成長するのかについて。16節。「キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わせられ、つながり合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります。」

ここで大切なのは、「キリストによって」というところです。成長というと、自分の努力で勉強して上を目指すことと思いがちです。でも聖書には、「キリストによって」と書いてある。自分の力や努力ではない、キリストがしてくださる。まずこのことをおさえておきましょう。

2) あらゆる節々が組み合わされ、つなぎ合わされる

ではキリストは私たちがどのように成長させてくださるのか。ここで鍵となることばは「組み合わされる」「つなぎ合わされる」、この二つです。組み合わされる、つなぎ合わされる、いずれも一人ではできません。二人とか三人以上の人が集まって初めてできることです。信じるもの同士が集められ、その人たちが組み合わされ、つなぎ合わされていきます。それも一人ですのではなく、互いに組み合わされていきます。

3) その分に応じて働く

でもどうやって組み合わされるか、つなぎ合わされるのでしょうか。大工であった祖父が孫のために机を作るといので、小さかった私はその作業をそばで見ていることがあります。木材にのみで穴を掘り、その穴にはまるようにもう一方の材木にこぎりで形をつくり、それを組み合わせてだんだん机のかたちになっていくのを眺めていたのを覚えています。ただノリや接着剤で木材をくっつけただけでは、何かの力が加わったときすぐに壊れてしまいます。ですからしっかりとつなぎ合わせるために、手間はかかりますが加工をする必要がある。

キリストが私たちが組み合わせていくのもおなじです。ただノリで接着するのではない。ではどうするか。「それぞれの部分はその分に応じて働くことにより。」このなかの「その分に応じて」が鍵となります。わかるようでわかりにくいことばです。少し説明します。7節に、「キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました」というところがありました。「その分に応じて」というところが7節の「量り」と同じことばを使っている。そのことをおさえながら訳し直すところなる。「キリストの量りによって与えられたそれぞれの賜物が働くことにより。」

以前話したことですが、ひとりひとりキリストの量りに従っていただく賜物を色にたとえたことがありました。みな同じ色ではなくて、実に様々な色がある。どれが優れているとか、どれが劣っているとか比べるのは意味がなくて、すべての色が美しくて素晴らしい。それらが組み合わされ、つなぎ合わされて成長し、キリストのからだを建て上げることになるというのです。

3 キリストのからだである教会

1) キリストは手と脇腹を差し出す

最後に考えます。いま、キリストの量りによって与えられた賜物をとおしてつなぎ合わされていくと言いました。それはどんな賜物なのでしょう。わかりやすいように色にたとえましたが、もう少し詳しく見てみましょう。

私たちが成長させてくださるのはキリストだと言いました。であれば、どのように成長するか、その模範もキリストが示して下さることになります。どこに模範があるのか。十字架につけられた姿、手と脇腹に記された傷口、そこから私たちは教えられます。十字架には、神としての権威、能力、地位、すべてを捨てて弱くなられたお姿があります。この十字架を通して、私たちは罪の赦しという賜物をいただきます。

そのような賜物をいただく資格が私たちにあったのでしょうか。先週の話しを思い出してください。イエスを裏切り、見捨てて、鍵をかけて隠れていた弟子たちの真ん中によみがえられたイエスが立って下さいました。「平安があなたがたにあるように」と語り、ご自分の手と脇腹を差し出し、弟子たちの罪を赦します。こうして弟子たちはキリストから素晴らしい賜物をいただき、福音を宣べ伝える者となってもう一度外に出て行きました。

2) 私たちは節々（関節）を差し出す

「あらゆる節々」とは関節のことです。キリストは、これにつながりなさいと傷ついた手と脇腹を差し出しました。私たちはキリストの模範に従って、節々、すなわち関節を差し出します。キリストからいただいた賜物を関節として差し出します。主に赦された罪と弱さを差し出していきます。そしてこんどは、相手から差し出された関節、つまり罪と弱さを、主が受け入れてくださったように、私たちも受け入れていくことになります。このようにして、私たちはつながります。世の人たちには、ありえない話とししか思われないでしょう。嘘だと思うのなら教会を見ればよい。聖書に書かれているとおりのことがこの教会の中でも行われてきました。わたしはその証人です。それは本当に素晴らしい神のわざです。

人と人とが憎み合い、ばらばらになり、愛が冷たくなっていくこの時代、救いの恵みを多くの方に知っていただき、キリストのからだなる教会につなぎ合わされていくことを願います。